YAMAHA VINTAGE PLUG-IN COLLECTION

based on VCM technology

オペレーションマニュアル

steinberg

Cristina Bachmann, Heiko Bischoff, Marion Bröer, Sabine Pfeifer, Heike Schilling, Benjamin Schütte

この PDF マニュアルでは、目の不自由な方のための高度なアクセシビリティ機能を提供しています。このマニュアルは複雑かつ多くの図が使用されているため、図の説明は省略されていることをご了承ください。

本書の記載事項は、Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。

本書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。

本書で取り扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます (バックアップコピー)。

Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。本製品のライセンス所有者は、個人利用目的にかぎり、本書を 1 部複製することができます。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2011.

All rights reserved.

目次

4 **概要とインストール**
4 はじめに
4 マニュアルについて
5 最小システム要件
5 インストール
7 ラインセスアクティベーション
7 ソフトウェアの登録

8 **Vintage Channel Strip**
8 概要
8 Equalizer 601
10 Compressor 276
11 Compressor 260

12 **Vintage Open Deck**
12 概要
12 全体
12 デッキの選択
13 レコーディングデッキコントロール
13 リプロダクションデッキコントロール
13 デッキメーター
13 テープパラメーター

14 **Vintage Stomp Pack**
14 概要
14 Phaser Max 100
15 Dual Phaser
16 Vintage Flanger
17 Vintage Phaser
18 Vintage Wah

概要とインストール

はじめに

このたびは、Yamaha Vintage Plug-In Collection をご購入いただきましてありがとうございます。Yamaha の誇る「K's LAB」の主要エンジニアが開発し、Steinberg 社がテストおよび販売を行なう Yamaha Vintage Plug-In Collection は、人々に広く愛された 1970 年代のリッチなサウンドを取り入れたいクリエイティブなミュージシャン、プロデューサー、ライブエンジニアに最適な製品です。Yamaha Vintage Plug-In Cllection のプラグインは、さまざまなスタジオやライブ環境でレコーディングされたあらゆる種類のインストゥルメントまたはボーカルトラックに使用できるように調整されており、隆盛を極めたアナログ機器と近年のコンピューターテクノロジーの架け橋となります。

Yamaha Vinage Plug-In Collection は、1970 年代で最も有名ないくつかのビンテージハードウェアを、忠実にモデリングしています。繊細なアナログの特性のデジタル化には、唯一のソリューションである Yamaha の Virtual Circuitry Modeling (VCM) テクノロジーを用いています。VCM テクノロジーは、2011 年夏にリリースされた Steinberg の Rupert Neve Designs プラグインの開発にも活用され、その最先端のモデリング技術によって、最も複雑なハードウェア回路でさえも詳細に再現します。この高度なテクノロジーの恩恵を受けて、Yamaha Vintage Plug-In Collection は、1970 年代のハードウェア機器のアナログ的な温かさを届けます。

Yamaha Vintage Plug-In Colection には 3 つのパッケージがあります。これらのパッケージには、コンプレッサー、EQ、テープサチュレーションプラグイン、およびストンプボックスエフェクトが含まれます。さまざまな要件を求められるオーディオプロジェクトでも、目的に合ったツールを使用できます。Vintage Wah プラグインを使用して 1970 年代のワウエフェクトのかかった温かいサウンドを作りたい、Compressor 276 でオーディオトラックにクラシックなコンプレッションを適用したい、または Vintage Open Deck テープサウンドのこれまでにないアナログディストーションをかけてレコーディングを洗練したい、Vintage Plug-In Collection はこれらすべてを実現します。

アナログ機器全盛時代のサウンドをお楽しみください。

オンラインサポートやサービスを受けられる MySteinberg に登録することをおすすめします。

Steinberg チーム

マニュアルについて

本書では、Yamaha が技術提供した VCM プラグインバンドル「Vintage Channel Strip」、単体プラグイン「Vintage Open Deck」、およびプラグインバンドル「Vintage Stomp Pack」に含まれるプラグインについて説明します。

⇨ **各プラグインのパネルにある Yamaha ロゴをクリックすると、プラグインのバージョン情報が表示されます。**

最小システム要件

このマニュアルで説明するプラグインを使用するには、コンピューターが以下の要件を満たしている必要があります。

Windows

- Windows 7 (32 ビットまたは 64 ビット)
- 2.66GHz の Intel Core 2 Duo
- 3GB の RAM
- 200MB のハードディスク空き容量
- Windows 互換のオーディオデバイス (低レイテンシーのパフォーマンスには ASIO 準拠のオーディオデバイス推奨)
- 1280 X 800 ピクセルのディスプレイ解像度
- VST2.4 または VST3 対応のホストアプリケーション
- USB-eLicenser (別売)
- USB-eLicenser (ライセンス管理) 用の USB ポート
- CD/DVD-ROM ドライブ
- インターネット接続環境 (ライセンスアクティベーションと登録用)

Macintosh

- Mac OS X 10.7 (32 ビットまたは 64 ビット)
- 2.66GHz の Intel Core 2 Duo
- 3GB の RAM
- 200MB のハードディスク空き容量
- CoreAudio 対応オーディオデバイス
- 1280 X 800 ピクセルのディスプレイ解像度
- VST3 または AU 対応のホストアプリケーション
- USB-eLicenser (別売)
- USB-eLicenser (ライセンス管理) 用の USB ポート
- CD/DVD-ROM ドライブ
- インターネット接続環境 (ライセンスアクティベーションと登録用)

インストール

コピープロテクション

⚠ **プラグインバンドルをインストールする前に、以下をお読みください。**

Steinberg 製品の多くは、USB-eLicenser (「ドングル」とも言う) というハードウェアコピープロテクションデバイスを使用します。

USB-eLicenser は、Steinberg ソフトウェアのライセンスデータを格納する USB デバイスです。ハードウェアプロテクトされた Steinberg 製品には、同じタイプの USB-eLicenser が使用されており、1 つの USB-eLicenser に複数のライセンスを格納できます。また、(一定の制限内で) USB-eLicenser 間でライセンスを転送することができます。これは、たとえばソフトウェアの一部を販売するときに役立ちます。

eLicenser Control Center では、新しいライセンスをアクティベートしたり、USB-eLicenser に格納されたライセンスを確認したりすることができます。eLicenser Control Center は、「スタート」メニュー (Windows) または「アプリケーション」フォルダー (Mac) から起動できます。

⇨ **コピープロテクトされた複数の Steinberg 製品を使用している場合、それらのライセンスを 1 つの USB-eLicenser に転送することもできます。これによって、使用する USB ポートが 1 つだけで済みます。**

Steinberg ソフトウェア製品には常にライセンスアクティベーションコードが同梱されていますが、USB-eLicenser には含まれていない場合があります。

- **Steinberg ソフトウェアのライセンスをアクティベートして、そのライセンスを USB-eLicenser に格納するには、eLicenser Control Center の「アクティベーションコードの入力」ボタンをクリックして、画面に表示される指示に従って操作します。**

ライセンスの転送またはアクティベーションの詳細については、eLicenser Control Center のヘルプを参照してください。

ソフトウェアのインストール

製品はディスク版またはダウンロード版で提供されます。

- **ディスク版の場合、ディスクをドライブに挿入すると、Start Center が自動的に起動します。**
  Start Center が起動しない場合、ディスクの内容を表示し、「Start_Center.exe」(Windows) または「Start_Center.app」(Mac) ファイルをダブルクリックします。
- **ダウンロード版の場合、ダウンロードしたファイルをダブルクリックして解凍します。**
  内容を表示して、「Start_Center.exe」(Windows) または「Start_Center.app」(Mac) ファイルをダブルクリックします。

Start Center では、プラグインのインストールを開始したり、追加のオプションや情報を参照したりできます。

インストール中、すべてのファイルが適切な場所に自動的に保存されます。

Start Center を使用せずにプラグインをインストールする場合は、以下の手順を実行してください。

Windows

1. **「Setup.exe」をダブルクリックします。**
2. **画面に表示される指示に従って操作します。**

Mac

1. **「Setup.mpkg」をダブルクリックします。**
2. **画面に表示される指示に従って操作します。**

ラインセスアクティベーション

30 日間の体験版か完全版かに関わらず、それぞれのライセンスアクティベーションコードを使用してライセンスをアクティベートする必要があります。

手順は以下のとおりです。

1. **プラグインのインストール後、USB-eLicenser がコンピューターの USB ポートに接続されていることを確認します。**
2. **eLicenser Control Center を起動します。**
   eLicenser Control Center は、「スタート」メニュー (Windows) または「アプリケーション」フォルダー (Mac) から起動できます。
3. **「アクティベーションコードを入力」ボタンをクリックします。**
   ダイアログが開いたら、アクティベーションコードを入力して、ライセンスをダウンロードできます。

ソフトウェアの登録

ユーザー登録は是非行なってください。登録することでテクニカルサポートを受けたり、アップデートなどの Steinberg 製品に関する各種の情報を得ることができます。

ソフトウェアを登録するには、www.steinberg.net/mysteinberg にアクセスし、専用の MySteinberg オンラインカスタマーポータルにログインして、画面の指示に従って操作します。

Vintage Channel Strip

概要

この章では、Vintage Channel Strip バンドルのプラグインについて説明します。

Equalizer 601

Equalizer 601 は、70 年代に使用されたアナログイコライザーの歪み特性をエミュレートします。音楽的なドライブ感や飽和感が得られます。

このプラグインは、オーディオトラックのチャンネル構成に応じてモノラルまたはステレオモードで動作します。

Equalizer 601 は、6 バンドのパラメトリックイコライザーです。2 つのシェルビングフィルター (低域と高域) と 4 つのピークフィルター (1 ～ 4 の中域) で構成されています。

全体的な設定

プラグインパネルの左側に、グローバルパラメーターがあります。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
DRIVE/CLEAN	イコライザーのタイプを切り替えます。DRIVE イコライザーでは、ディストーションが加えられ、アナログサウンドの印象が強まります。CLEAN イコライザーでは、ディストーションがかかっていない、デジタルオーディオ処理特有のクリアーなサウンドになります。
INPUT	入力レベルを調整します。
ピークメーター	プラグインの出力レベルが表示されます。モノラルモードでは、ピークメーターが 1 つだけ表示されます。
OUTPUT	出力ゲインを調整します。

EQ の設定

プラグインパネルの右側では、EQ を設定します。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
Q	低域フィルターと高域フィルターの場合、「Q」パラメーターでフィルタータイプを設定します。低域では、2 つのハイパスフィルターと 2 つのローシェルビングフィルターが提供されます。高域では、2 つのローパスフィルターと 2 つのハイシェルビングフィルターが提供されます。 中域フィルターの場合、「Q」パラメーターで周波数レスポンスカーブの幅を設定します。
F	各帯域のフィルターの中心周波数をコントロールします。
G	各帯域のフィルターのゲインをコントロールします。
フィルターのオン/オフ	一番下のボタンでは、対応する帯域のフィルターのオン / オフを切り替えます。
FLAT	このボタンをクリックすると、各周波数帯域のゲインが 0 dB にリセットされます。 低域フィルターと高域フィルターは、ローシェルビングフィルターとハイシェルビングフィルターにリセットされます。 「FLAT」ボタンをオンにすると、すべてのパラメーターがデフォルト値に設定されます。

プラグインパネルの上側のセクションには、すべての帯域の周波数レスポンスカーブが表示されます。

- **フィルター周波数とゲインを変更するには、カーブディスプレイをクリックして、カーブポイントをドラッグします。**
- **Q の値を変更するには、[Shift] を押しながらカーブポイントをクリックして、ドラッグします。**
- **周波数レスポンスカーブの右にあるズームコントロールを使用すると、垂直方向にズームインまたはズームアウトできます。**

Compressor 276

Compressor 276 は、レコーディングスタジオで定番のエフェクトとして使用されるアナログコンプレッサーの特性をエミュレートします。サウンドが太くなるので、ドラムやベースサウンドに適しています。

このプラグインは、オーディオトラックのチャンネル構成に応じてモノラルまたはステレオモードで動作します。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
INPUT	入力レベルを調整します。入力レベルがスレッショルド値を超えると、コンプレッサーが効きはじめます。
OUTPUT	出力ゲインを調整します。
RATIO	レシオを調整します。2、4、8 に設定すると、ダイナミックレンジが圧縮されます。12、20 に設定すると、リミッターとなり、ピークを制限できます。
ATTACK	Compressor 276 がスレッショルドよりもレベルの高い信号に反応するまでの時間を設定します。「ATTACK」タイムが長くなるほど、処理されずに通過する信号 (アタック) の量が多くなります。
RELEASE	信号がスレッショルド値のレベルを下回った場合にゲインが元のレベルに戻るまでの時間を設定します。
AUTO MAKEUP	オンにすると、全体の出力レベルのばらつきが大きくならないように、プラグインによって適用される出力ゲインリダクションの量が自動的に修正されます。
INTERNAL SC HPF	オンにすると、低域の圧縮が抑えられ、低域の出力レベルが上がります。
VU メーター	信号レベルが表示されます。モノラルモードでは、表示される VU メーターは 1 つだけです。
GR/-10/-20	VU メーターの右にあるボタンでは、あるレベルをメーターの 0 VU に割り当てて、VU メーターのレベルを調整する、またはゲインリダクションの量を表示できます。
OFF	VU メーターをオフにします。

Compressor 260

Compressor 260 は、70 年代半ばに活躍したコンプレッサーとリミッターの特性をエミュレートします。VST3 バージョンのプラグインでは、サイドチェーンの入力が提供されます。サイドチェーンの詳細については、ホストアプリケーションのマニュアルを参照してください。

このプラグインは、オーディオトラックのチャンネル構成に応じてモノラルまたはステレオモードで動作します。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
THRESHOLD	圧縮が適用されるレベルを設定します。設定したスレッショルドよりレベルの高い信号が処理され、この値よりレベルの低い信号は処理されません。
KNEE (SOFT/MEDIUM/HARD)	圧縮が適用される速さを設定します。「SOFT」に設定すると、レベルの上昇に応じて圧縮率がゆっくり上がり、「HARD」に設定すると、すぐに圧縮されます。
ATTACK	Compressor 260 がスレッショルドよりもレベルの高い信号に反応するまでの時間を設定します。「ATTACK」タイムが長くなるほど、処理されずに通過する信号 (アタック) の量が多くなります。
RELEASE	信号がスレッショルド値のレベルを下回った場合にゲインが元のレベルに戻るまでの時間を設定します。
RATIO	レシオを調整します。コントロールを右に回すと圧縮率が高くなります。右いっぱいに回すと、リミッターとして動作します。
OUTPUT	出力ゲインを調整します。
GR メーター	プラグインによって適用されるゲインリダクションの量が表示されます。
OUT メーター	エフェクトの出力レベルが表示されます。

Vintage Open Deck

概要

Vintage Open Deck は、伝説のオープンリールテープレコーダーのアナログ回路とテープの特性をエミュレートします。このプラグインはレコーディングデッキとリプロダクションデッキで構成され、それぞれのデッキで 4 つのデッキタイプから選択できます。

⇨ **Vintage Open Deck はステレオ用のエフェクトです。モノラルのトラックに追加すると、プラグインの左チャンネルのみが使用されます。**

全体

デッキの選択

プラグインパネルの上部にあるポップアップメニューで、使用するレコーディングテープデッキまたはリプロダクションテープデッキのタイプを指定できます。ポップアップメニューの間にあるスイッチを使用して、デッキのピークメーターと VU メーターでモニターする信号のソースを選択できます。

レコーディングデッキコントロール

プラグインパネルの左側には、レコーディングデッキのコントロールがあります。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
RECORD	レコーディングデッキの入力レベルを調整します。入力レベルを上げると、テープの圧縮が上がり、ダイナミックレンジが狭まってサウンドが歪みます。
AUTO MAKEUP	オンにすると、「REPRODUCE」コントロールの設定が「RECORD」コントロールの設定に合わせられます。これによって、レコーディングデッキの入力レベルを上げたときに、全体的な出力レベルが同じになります。そのため、出力レベルを変更せずに、ディストーションの量を調整できます。
ADJUST – HIGH	レコーディングデッキの高域のゲインを調整します。
BIAS	レコーディングデッキのバイアスを調整します。これによって、ディストーションレベルを制御できます。このコントロールを「LESS」側に回すと、信号レベルが上がり、高域がブーストされます。「OVER」側に回すと、ダイナミックレンジが狭まり、高域のサチュレーションが発生します。

リプロダクションデッキコントロール

プラグインパネルの右側には、リプロダクションデッキのコントロールがあります。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
REPRODUCE	リプロダクションデッキの出力レベルを調節します。
ADJUST – HIGH	リプロダクションデッキの高域のゲインを調整します。
ADJUST – LOW	リプロダクションデッキの低域のゲインを調整します。

デッキメーター

「RECORD/REPRO」スイッチの設定に応じて、プラグインパネルの中央のメーターに、レコーディングデッキへの信号入力か、またはリプロダクションデッキからの信号出力が表示されます。

⇨ **モノラルトラックにこのプラグインを追加した場合、上側のメーターだけが使用されます。**

VU メーターレベルの調整

メーターの 0 VU に割り当てるレベルを調整できます。これは、非常に低いレベルの信号をより正確にモニターするのに便利です。手順は以下のとおりです。

1. **プラグインパネルの左下にある「VU ADJUST」ボタンをオンにします。**
2. **メーターセクションで、「VU ADJUST」コントロールを使用して 0 VU のレベルを設定します。**

テープパラメーター

プラグインパネルの下部には、テープパラメーターコントロールがあります。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
SPEED	テープ速度を設定できます。テープヘッドサチュレーションのサウンド特性が変わります。30 (ips/1 秒あたりに進むインチ) は、15 (ips) に比べて高域のレスポンスが向上します。15 (ips) は、低域のレスポンスが豊かになります。
TAPE KIND	テープサチュレーションのサウンド特性を変えることができます。

Vintage Stomp Pack

概要

この章では、Vintage Stomp Pack バンドルのプラグインについて説明します。

Phaser Max 100

Phaser Max 100 は、70 年代後半に製造されたアナログフェイザーエフェクトのサウンドを再現します。

このプラグインは、オーディオトラックのチャンネル構成に応じてモノラルまたはステレオモードで動作します。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
MODE	サウンドの音色特性を設定します。I (ワイド / ハイレゾナンス)、II (ワイド / ローレゾナンス)、III (ナロー / ハイレゾナンス)、IV (ナロー / ローレゾナンス) モードから選択できます。
SPEED	モジュレーションレートを調整したり、エフェクトを「Sync」モード (下記を参照) に設定したりします。
Sync	「SPEED」コントロールを Sync 位置 (「S」) に設定すると、プロジェクトテンポにエフェクトを同期させることができます。2 つのパラメーターコントロールが表示されます。 Sync Phase: LFO の初期位相を設定できます。 Sync Speed: 同期のテンポをノート値で設定できます。付点音符や 3 連音符の値も選択できます。
バイパス	フットスイッチをクリックしてエフェクトをバイパスできます。

Dual Phaser

Dual Phaser は、70 年代半ばに製造されたフェイザーエフェクトのサウンドを再現します。

このプラグインは、2 つの LFO (Low Frequency Oscillators) と 2 つのフェイザーで構成されています。Phaser A と LFO 1 は常に接続されています。Phaser B では、LFO 1 と LFO 2 から選択でき、フェイザースイープの位相を反転できます。

VST3 バージョンのこのプラグインは、オーディオトラックのチャンネル構成に応じてモノラルまたはステレオモードで動作します。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
LFO 1 RATE	モジュレーションレートを調整したり、LFO を「Sync」モード (下記を参照) に設定したりします。
LFO 1 Sync	「RATE」コントロールを Sync 位置 (「S」) に設定すると、プロジェクトテンポに LFO を同期させることができます。2 つのパラメーターコントロールが表示されます。 Sync Phase: LFO の初期位相を設定できます。 Sync Speed: 同期のテンポをノート値で設定できます。付点音符や 3 連音符の値も選択できます。
LFO 1 SHAPE	LFO の波形 (サイン波または矩形波) を指定します。
Phaser A DEPTH	Phaser A のモジュレーションの深さを設定します。
Phaser A FEEDBACK	フェイザーエフェクトの強さを調整します。
Phaser A ON/OFF	Phaser A のオン / オフを切り替えます。
LFO 2 RATE	モジュレーションレートを調整したり、LFO を「Sync」モード (下記を参照) に設定したりします。
LFO 2 Sync	「RATE」コントロールを Sync 位置 (「S」) に設定すると、プロジェクトテンポに LFO を同期させることができます。2 つのパラメーターコントロールが表示されます。 Sync Phase: LFO の初期位相を設定できます。 Sync Speed: 同期のテンポをノート値で設定できます。付点音符や 3 連音符の値も選択できます。
LFO 2 SHAPE	LFO の波形 (サイン波または矩形波) を指定します。
Phaser B DEPTH	Phaser B のモジュレーションの深さを設定します。
Phaser B FEEDBACK	フェイザーエフェクトの強さを調整します。
SWEEP LFO1/2	Phaser B に LFO 1 または 2 のどちらを接続するかを選択します。
SWEEP NORM/REV	Phaser B の LFO 位相を、通常か反転のいずれかに選択します。
Phaser B ON/OFF	Phaser B のオン / オフを切り替えます。

モードの設定

プラグインパネルの右にある「MODE」コントロールを使用して、Phaser A と Phaser B の接続構成を選択できます。構成は、プラグインがモノラルとステレオのどちらで動作するかによって異なります。

使用可能なモードは以下のとおりです。

オプション	説明
ステレオ I	ステレオ入力がミックスされます。その後、左チャンネルから出力されるサウンドに Phaser A、右チャンネルから出力されるサウンドに Phaser B が適用されます。
ステレオ II	ステレオ入力がミックスされます。次に左チャンネルから出力されるサウンドに Phaser A が適用されます。その後、右チャンネルから出力されるサウンドに Phaser A と Phaser B が順次適用されます。
ステレオ III	ステレオ入力がミックスされます。左右のチャンネルから出力されるサウンドに Phaser A と Phaser B が順次適用されます。
ステレオ IV	左チャンネルに入力されるサウンドに Phaser A が適用され、左チャンネルから出力されます。右チャンネルに入力されるサウンドに Phaser B が適用され、右チャンネルから出力されます。
モノラル I	まず信号に Phaser A が適用され、次に Phaser B が適用されます。
モノラル II	元の信号に Phaser A と Phaser B の両方が別々に適用されます。その後、それら 2 つのサウンドがミックスされます。

Vintage Flanger

Vintage Flanger は、70 年代に使用されたアナログフランジャーエフェクトの特性をエミュレートし、温かいフランジング効果を生み出します。

⇨ **Vintage Flanger はステレオ用のエフェクトです。モノラルのトラックに追加すると、プラグインの左チャンネルのみが使用されます。**

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
SPEED	モジュレーションをコントロールする LFO の周波数を調整したり、エフェクトを「Sync」モード (下記を参照) に設定したりします。
Sync	「SPEED」コントロールを Sync 位置 (「S」) に設定すると、プロジェクトテンポにエフェクトを同期させることができます。2 つのパラメーターコントロールが表示されます。 Sync Phase: LFO の初期位相を設定できます。 Sync Speed: 同期のテンポをノート値で設定できます。付点音符や 3 連音符の値も選択できます。
MANUAL	モジュレーションの中心周波数を設定します。
DEPTH	LFO 波形の振幅を変更してモジュレーションをコントロールすることで、エフェクトの深さを設定します。
FEEDBAC k	フランジャーエフェクトの強さをコントロールします。
SPREAD	ステレオでのサウンドの幅を設定します。このプラグインがモノラルトラックに追加された場合、このパラメーターは無視されます。
MIX	信号のドライ / ウェットのミックス比率を調整します。
TYPE	3 つのフランジャータイプを切り替えます。
バイパス	フットスイッチをクリックしてエフェクトをバイパスできます。

Vintage Phaser

Vintage Phaser を使用すると、あらゆる種類のフェイザーサウンドを作り出せます。

このプラグインは、オーディオトラックのチャンネル構成に応じてモノラルまたはステレオモードで動作します。

使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

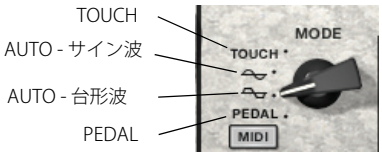
パラメーター	説明
SPEED	モジュレーションレートを調整したり、エフェクトを「Sync」モード (下記を参照) に設定したりします。
Sync	「SPEED」コントロールを Sync 位置 (「S」) に設定すると、プロジェクトテンポにエフェクトを同期させることができます。2 つのパラメーターコントロールが表示されます。 Sync Phase: LFO の初期位相を設定できます。 Sync Speed: 同期のテンポをノート値で設定できます。付点音符や 3 連音符の値も選択できます。
MANUAL	モジュレーションの中心周波数を設定します。
DEPTH	モジュレーションの深さを設定します。
FEEDBAC k	フェイザーエフェクトの強さをコントロールします。
COLOR	サウンドのカラーを設定します。このパラメーターは、MODE と STAGE の特定の組み合わせでのみ使用できます。
SPREAD (ステレオモードのみ)	ステレオでのサウンドの幅を設定します。
MODE	サウンドの音色特性を設定します。
STAGE	フェイザーエフェクトが作り出すステージ (オールパスフィルター) の数を設定します。
バイパス	フットスイッチをクリックしてエフェクトをバイパスできます。

Vintage Wah

Vintage Wah は、70 年代に使用されたアナログワウエフェクトの特性をエミュレートし、温かいワウ効果を生み出します。

このプラグインは、オーディオトラックのチャンネル構成に応じてモノラルまたはステレオモードで動作します。

このエフェクトには、「TOUCH」、「AUTO」、および「PEDAL」の 3 つの基本動作モードがあります。



使用可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
TOUCH	このモードでは、入力レベルに反応してエフェクトがコントロールされます。
AUTO (台形波/サイン波)	これらのモードでは、ワウ効果が自動的に作り出されます。台形波は、サイン波より強い効果が得られます。
PEDAL	このモードでは、MIDI コントローラーを使用するか、またはプラグインインターフェイスの左にあるペダルセクションをクリックしてドラッグすることによって、ワウエフェクトをコントロールできます。MIDI コントロールチェンジナンバーを選択するには、MIDI ボタンをクリックします。プラグインパネルのペダルを使用するには、「No Assign」を選択します。
SENS/SPEED	「TOUCH」モードでは、「SENS」パラメーターによって、エフェクト信号に対する入力レベルの影響が決まります。2 つの「AUTO」モードでは、「SPEED」パラメーターによってワウ効果の速度、つまりペダル操作の速さがコントロールされます。
Sync	「SPEED」コントロールを Sync 位置 (「S」) に設定すると、プロジェクトテンポにエフェクトを同期させることができます。2 つのパラメーターコントロールが表示されます。 Sync Phase: ワウフィルターのモジュレーション信号の初期位相を設定できます。 Sync Speed: 同期のテンポをノート値で設定できます。付点音符や 3 連音符の値も選択できます。
TYPE	エフェクトで高域、中域、低域、基本のどの周波数を強調するかを設定します。「TOP」と「BOTTOM」スライダーを使用して、ペダルレンジ (サウンドスペクトラムでの最高と最低の位置) 設定できます。
OVERDRIVE	エフェクトの歪みの度合いを設定します。
OUTPUT	エフェクトの出力レベルを設定します。